

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	こどもデイサービス AELL（あえる） 単位1		
○保護者評価実施期間	R7年 2月 4日		～ R7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	R7年 2月 4日		～ R7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	座る、話を聞く、順番を守るなど、日々の活動の中で社会性を身に付ける為の行動を行えている。	トークンを活用し、子どもたちが意欲的に社会性を身に付けられるようにしている。 毎日褒める時間を設定し、一人一人の良い所を伸ばす工夫をしている。	トークンの活用場面や褒める場面が画一化しがちなので、一人一人に必要な場面や内容を意識する。
2	年2回、ご家族を交えたイベントを行い、普段見られないお子様の様子や成長を感じる機会を設けている。	ご家族と一緒に参加できるイベントと、お子様の発表の場としてのイベントに分けている。	イベントを通じて保護者同士の交流は出来ているが、保護者会など意見交換の場を作っていきたい。
3	日々の活動も数種類用意し、お子様や保護者の方が自分で選べるようにしている。	自分で選び参加し、意欲的に最後までやり遂げる力を身に付けられるよう意識している。	お子様が興味を引くような活動内容を考え、飽きさせない工夫をしていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	PDCAサイクルが定着しにくい。	決まった事は周知、徹底が出来ているが、要因分析に差がある為、新たな課題や支援が生まれにくい。	一つの問題に対して常に要因を職員間で話し合っていく。要因から適切な対応を導き出せるよう学んでいく。
2	職員の支援に差がある。	職員の知識や経験に差がある。 お子様の課題と思われる部分の見立てに差がある。	研修を通じて職員のスキルアップを図る。 終礼で支援内容の確認は行っているが、一人一人が支援内容を考える時間を設ける。
3	職員間のコミュニケーション不足。	自分の考えだけで支援を行ってしまう事がある。	報連相を徹底し、広い視野で支援を行えるようにしていく。

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	こどもデイサービス AELL（あえる） 単位1		
○保護者評価実施期間	R7年 2月 4日		～ R7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	R7年 2月 4日		～ R7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	座る、話を聞く、順番を守るなど、日々の活動の中で社会性を身に付ける為の行動を行えている。	独自通貨を活用し、子どもたちが意欲的に実生活に即した社会性を身に付けられるようにしている。 毎日褒める時間を設定し、一人一人の良い所を伸ばす工夫をしている。	独自通貨の活用場面や褒める場面が画一化しがちなので、一人一人に必要な場面や内容を意識する。
2	年2回、ご家族を交えたイベントを行い、普段見られないお子様の様子や成長を感じる機会を設けている。	ご家族と一緒に参加できるイベントと、お子様の発表の場としてのイベントに分けている。	イベントを通じて保護者同士の交流は出来ているが、保護者会など意見交換の場を作っていきたい。
3	日々の活動も数種類用意し、お子様や保護者の方が自分で選べるようにしている。	自分で選び参加し、意欲的に最後までやり遂げる力を身に付けられるよう意識している。	お子様が興味を引くような活動内容を考え、飽きさせない工夫をしていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	PDCAサイクルが定着しにくい。	決まった事は周知、徹底が出来ているが、要因分析に差がある為、新たな課題や支援が生まれにくい。	一つの問題に対して常に要因を職員間で話し合っていく。要因から適切な対応を導き出せるよう学んでいく。
2	職員の支援に差がある。	職員の知識や経験に差がある。 お子様の課題と思われる部分の見立てに差がある。	研修を通じて職員のスキルアップを図る。 終礼で支援内容の確認は行っているが、一人一人が支援内容を考える時間を設ける。
3	職員間のコミュニケーション不足。	自分の考えだけで支援を行ってしまう事がある。	報連相を徹底し、広い視野で支援を行えるようにしていく。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもデイサービス AELL (あえる) 単位2		
○保護者評価実施期間	R7年 2月 4日		~ R7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	71	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	R7年 2月 4日		~ R7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自分で考え、選び、最後までやり遂げることで社会性を身に付ける為の行動を行っている。	独自通貨を活用し、子どもたちが意欲的に実生活に即した社会性を身に付けられるようにしている。 毎日振り返りの時間を設定し、一人一人の課題をお子様と一緒に考えている。	独自通貨の活用場面や振り返りの内容が画一化しがちなので、一人一人に必要な場面や内容を意識する。
2	年2回、ご家族を交えたイベントを行い、普段見られないお子様の様子や成長を感じる機会を設けている。	ご家族と一緒に参加できるイベントと、お子様の発表の場としてのイベントに分けている。	イベントを通じて保護者同士の交流は出来ているが、保護者会など意見交換の場を作っていきたい。
3	日々の活動も数種類用意し、お子様や保護者の方が自分で選べるようにしている。	自分で選び参加し、意欲的に最後までやり遂げる力を身に付けられるよう意識している。	お子様が興味を引くような活動内容を考え、飽きさせない工夫をしていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	PDCAサイクルが定着しにくい。	決まった事は周知、徹底が出来ているが、要因分析に差がある為、新たな課題や支援が生まれにくい。	一つの問題に対して常に要因を職員間で話し合っていく。要因から適切な対応を導き出せるよう学んでいく。
2	職員の支援に差がある。	職員の知識や経験に差がある。 お子様の課題と思われる部分の見立てに差がある。	研修を通じて職員のスキルアップを図る。 終礼で支援内容の確認は行っているが、一人一人が支援内容を考える時間を設ける。
3	職員間のコミュニケーション不足。	自分の考えだけで支援を行ってしまう事がある。	報連相を徹底し、広い視野で支援を行えるようにしていく。